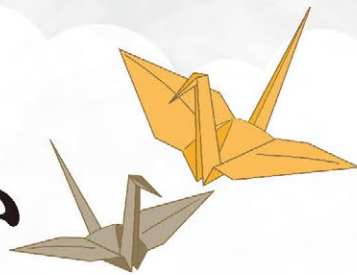




能代南中学校  
3年 梅田 夏海さん

終戦から80年

# 平和への誓い



能代市では「非核  
平和都市宣言」を  
しています



今年度の能代市戦没者追悼式・平和祈念式典で発表された能代南中学校3年の梅田夏海さんの「平和への誓い」の作文を掲載します。平和の尊さを次の世代へ伝えていくため、皆さんも平和について考えてみませんか。

問合せ 福祉課 Tel.89-2152

今年の五月、私は修学旅行で東京に行きました。班別研修の見学先に選んだのは「昭和館」というところでした。そこでは、昭和、主に戦争中のものを実際に見たり、体験したりしました。特に私の心を強く揺さぶったのは防空壕体験でした。それは、想像より遙かに重い体験でした。

隣の人の顔もはつきりと見えない暗がりの中での激しい揺れ、爆発の音、それから隙間から少し見える炎の赤い光。体験中、私たちはその言い知れぬ言葉にならない怖さに、声さえ上げることができませんでした。何かに訴えるように、ただただ、じっと、自分の荷物を抱えていました。体験が終わわり、外に出たとき、外の明るさに心からほっとしたことを覚えています。

私たちは、体験が終わったら、外に明るい世界が広がっていると分かっているから、耐えることができました。けれど、当時の人たちが防空壕から出るときは、そこに火の海が広がっているかもしれない。今一緒にいない家族とは、生きて会えるかも分からない。ここから出たあと、自分が生き残れるかも分からない。防空壕から出るときどれほど不安だったでしょう。どれほどの衝撃や絶望があったでしょう。

防空壕体験の後、当時の様子を伝える資料の数々を見ました。服、おもちや、手紙……。見るほどに、戦争をより近くに感じるようになりました。ふと、「私のおばあちゃんはじゃがいもを食べなかった」と母が言っていたのを思い出しました。「戦争のと

きじゃがいもしか食べるものがなく、ずっとじゃがいもを食べていたから、戦後に食べなかったのかもしれない」と言っていたことも。

戦時中、食糧難で食べ物なかったとき、曾祖母にとつてもじゃがいもは自分の命をつないでくれた、生活を支えてくれた大きな存在だったはずなのに、戦争は、命をつないでくれたものさえも忌まわしいものにしてしまうのだと思いました。それとても恐ろしいことです。

今も世界では戦争が行われていて、ウクライナとロシアの戦争では、停戦に向けての動きはあるものの、今も終わりを迎えていません。三年も経ったのに。戦争をしている間中、たくさん人の尊い命が失われ続けるのに。戦争が終わって生き残ることができた人にもただただ辛く、悲しい記憶しか残らないのに。国に得るものがあつたとしても、失うものに比べて、それはどれほどのものかというのでしょうか。今すぐ止めたらいいと、声を大にして言いたい。

でも、たとえば私が隣の友達に「戦争早く終わってほしい」と言ったらとしても、また仮に私がたぐさんのフォロワーをもっているインフルエンサーで、世界に向けて自分の考えを発信してそれがバズったとしても、それが戦争中の国に伝わることも、それによって戦争が終わることもないでしょう。今の私たち中学生は政治的にはとても無力です。けれど、だからといって、戦争のことを私たちの関係のないもの、仕方のないことと思って、何も言

わないのはいけないと思うようになりました。

私たちはもつと口に出せばいいと思うのです。戦争の話題に触れる度、戦争のニュースが流れる度、「戦争はだめだ」、「やめればいいのに」、と口に出せばいいと思うのです。それは、自分の考えを口にすることは「今」をすぐに変えることができなくても、将来につながると思うからです。話すことによって、今起きている戦争のことにについて考えることができます。話題にすることで、こんなことは起きないようになり、とみんな確認すること、命は一番大事なものと共通の認識をもつことができます。そういう「今」を積み重ねることで、将来、私たちが政治への影響力をもったとき、平和な世界に近づけると思うのです。戦後八十年を迎えた今年、当時を知る人も、間接的に話を聞いたことがある人も、少なくなりました。うっかりすると、風化してしまう。だから過去の戦争、今の戦争について触れる機会をもつたびに、戦争について知ること、話すことを大切にしたいと思います。

「今」私たちがすべきことは、国内外のことを知ること、命を大事と強く思うこと、自分の正しいと思うことを言葉として伝え、思いを共有すること。そして何より、これからの日本を担っていくのは私たちで、私たちみんなが平和を守ろうと考える続けること。このことを私たちの一番の果たすべきことと肝に銘じ、「今」を積み重ねていきたいと思っています。